

足原のぞみ苑 デイサービスセンター
令和5年度 事業報告

1 概況報告

利用者の状況等

- | | |
|----------|--------|
| ① 平均年齢 | 85.5 歳 |
| ② 平均要介護度 | 2.14 |

職員の状況等

- | | |
|---------------|-----|
| ① 生活相談員 | 2 名 |
| ② 介護職員 | 6 名 |
| ③ 介護職員（非常勤職員） | 4 名 |
| ④ 看護職員 | 3 名 |

今年度は毎月 10 件ほど営業活動を行い、4 割ほど新規利用に繋がった。また、月に平均 3 名を新規獲得している。

今年度の稼働率は 69.9% となっており、前年度は 62.1% だった為、稼働率は 7.8% 上回っている。事業目標の稼働率 65% という目標は達成することが出来た。

今後は、利用増加に伴い送迎エリアや送迎時間の調整を行うことで有効的な送迎表の見直しを定期的に行う必要がある。

2 事業報告

① 自立支援

(取り組み)

- ・季節に合った行事や外出（ドライブ・園芸）等を企画、実施している。
- ・日々のレクリエーションでは生け花や物書きなどを行い、達成感を味わえる活動を行った。

【評価】

- ・目的を持った活動支援につなげることが出来た。また、ご自身の名前や文章を書き、手を動かすことで脳の活性化や認知症予防に繋がるような取り組みとなった。

②健康管理

(取り組み)

- ・感染症の発生時において、利用者に対するサービスの提供を継続的に実施できる様、計画策定に取り組んだ。
- ・医療行為重視のカンファレンスでは看護職員も同席することで、医療職としての対応や考えを伝え、他職種との情報共有を図った。

【評価】

- ・実際に発症者が出た際の対応について見直しを行い、緊急時に職員が対応できるような記録の整備が行えた。
- ・介護度がアップして困難ケースが増えてきており、対応に苦勞する場面があるが、他職種との情報共有を図り、様々な対応策に努めた。

③機能訓練

(取り組み)

- ・在宅生活を継続する為に必要な生活動作能力の習得、維持を重点とした訓練内容とした。
- ・歩行分析 AI アプリを使用し、継続的に評価を出している。

【評価】

- ・運動機能訓練だけでなく、レクリエーションや役割を通して成功体験を得ることで、両側面からアプローチする事が出来た。
- ・効果の見えるサービスの提供を行い、利用者の状態に応じた訓練内容とした。

④職員教育

(取り組み)

- ・職員個々の専門性を高める為に、介護福祉士等の資格取得を推進した。
- ・主任業務の一つである業務改善や人材育成といった役割を明確化できる様に外部のリーダー研修やアセッサー研修を受講し、主任へのスキルアップを積極的に行った。

【評価】

- ・今年度は認知症介護実践者研修1名取得と現在、介護福祉士実務者研修を受講中である。
- ・リーダー育成に取り組むことで今後、現場の活動に関して指示や発信を行えるようにしていく。

⑤地域活動

(取り組み)

- ・安全パトロールやまち美化活動はコロナウイルス感染症の感染率の状況をみながら参加することが出来ている。
- ・学童の子供たちとの交流はコロナウイルス感染症の拡大により中止となったが、保育園の子供たちによる訪問は窓越しではあったが交流することが出来た。

【評価】

- ・地域活動の中で、当苑も地域に浸透してきたかと思われる。昨年に引き続き、積極的に活動することで信頼関係を構築していく。

⑥家族交流

(取り組み)

- ・月に一度発行している新聞を活用し、当苑での取り組みや在宅生活に有効な情報を分かりやすく伝えた。
- ・送迎時にはご家族と少しでも話をし、情報の共有や介護の悩み事を聞き一緒に考える姿勢を示す事で良好な関係が築けるよう努力した。
- ・送迎時にはご家族と少しでも話をし、情報の共有や介護の悩み事を聞き一緒に考える姿勢を示す事で良好な関係が築けるよう努力した。

【評価】

- ・月に一度の新聞をご家族も楽しみにしている様子。今後もデイでの様子を分かりやすく伝えていく。
- ・送迎時や連絡帳を通じ情報交換をしながら、ご家族の希望を受け止め、信頼関係を築き、安心してサービスを利用して頂けた。

⑦職場環境

(取り組み)

- ・非常勤職員と常勤職員の業務内容（職員配置）の見直しや振り分けを行った。
- ・残業の内容把握と各業務の割り出しを行った。

【評価】

- ・非常勤職員と常勤職員の再編を行い、サービス提供と職員配置のバランスの取れた職場環境に取り組んでおり、継続中である。
- ・苑内研修などは工夫して就業時間内に実施しており、残業はほとんどないが、主任業務の業務量が多く、偏っている為もう一人主任を配置し、業務を振り分けることで人材育成や業務改善の充実を図った。

⑧事業目標

- ・稼働率は改善傾向にあるが、人員補助の為、他部署と検討を行い職員移動を行っている。今後も継続して人件費の動向や収支状況を確認しながら予算管理を徹底する。
- ・今後の経営課題については、取り組むテーマの要素（業務、ケア、営業）が整理されていないのでまずはその整理から行き、より具体的な実践内容としていく。